

大辺路再生実行委員会平成 18 年度総会

平成18年7月1日(土)、串本町古座分庁舎において、午後1時30分から「大辺路再生実行委員会総会」が開かれ、平成17年度の事業報告と平成18年度の事業計画案などが報告され、種々議論の上承認されました。グランドデザイン那智勝浦2班5名、熊野古道大辺路刈り開き隊5名、大辺路富田坂クラブ1名の民間、行政サイドは和歌山県が県庁地域振興課、東・西牟婁振興局世界遺産担当主幹、世界遺産センター、町が白浜町、串本町、那智勝浦町、すさみ町の担当者の他、国交省が新宮・串本の国道維持出張所長、藤原係長の3名、紀南文化財研究会、SBWのHP担当がオブザーバーで参加、参加者が計30名を超える盛会となりました。その概要を以下に報告します。

1. 平成 17 年度事業報告

昨年12月17日に実行委員会を立上げた。そして今年度、民間・行政など参加団体の連携と和歌山経済同友会の寄附金100万円を活用して、充て失われた古道「大辺路」を復興させる活動を強化・充実させた。具体化には平成18年1月からは今まで個別に実施していた草刈・清掃以外に、一部重機なども使用して参加団体が参集して、「那智勝浦町湯川・狗子ノ川周辺、富田坂城山周辺、串本町和深サダテ周辺」をかなり大規模に整備できた。特に和深では、大量の不法投棄されたゴミを企業の協力も得、重機を使って整理、大辺路の古道環境を回復した。

2. 平成 18 年度事業計画

平成18年度は、県・関係市町村の負担金・和歌山県経済同友会寄付金約350万円を活用して、以下の大辺路再生5事業を中心に関係各団体が協力して推進していく。

- (1)大辺路現地調査事業
- (2)古道整備事業
- (3)標識設置事業
- (4)古道の維持及びパトロール事業
- (5)大辺路再生PR事業

3. 大辺路再生に向けた今後の取り組み等について

- (1)調査部会を設置して内容及びスケジュールを明確にして具体的な活動を開始する。
- (2)三重県・奈良県と広域連携する方向を目指していく。
- (3)シーニックバイウェイ紀南(仮称)と相互に連携を目指す。
- (4)19年度の具体的な事業検討を開始し、8月中にまとめる。

など

シーニックバイウェイ紀南モデルルートの申請書の第一番に上げた「大辺路再生事業」は、大辺路再生実行委員会によって、厳しい財政状況の大変な中、関係者の「知恵と汗と志」で少しずつではあるが具体的に推進され、効果を現し始めている。今後、シーニックバイウェイ紀南が協力して、本事業の推進に勢いをつける方向に進むことを期待したい。